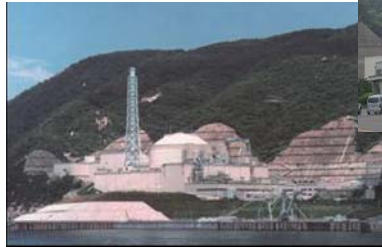


技術交流情報



令和2年3月27日

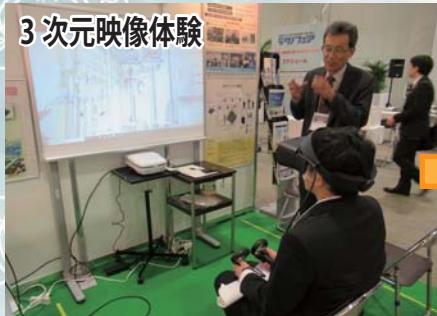
【技術成果の展開】 令和元年度 展示会への出展

原子力機構では研究開発を通して創出した技術を地域企業（福井県内）の皆様に使って頂けるよう、そのきっかけとするため、毎年様々な展示会に参加しています。今年度は、10月の「北陸技術交流テクノフェア2019（福井市）」など9つの会場で、地域企業と機構との連携で生まれた製品・商品を紹介しました。

また、原子炉施設の廃止措置現場をコンピューター上で3次元映像（複合現実感システム）で体験する場も設けました。この映像化技術は、実際の解体作業に活用されますが、一般産業での利用も期待できるものです。



製品展示ブース



3次元映像体験



利用者が見る映像

原子炉施設現場

<北陸技術交流テクノフェア2019>

【技術交流】 観賞コケ育成に関する地域企業との連携



コケ育成実験場

コケは、海外では1970年頃から「Bonsai」として根強い人気があります。2017年にさいたま市で開催された第8回世界盆栽大会では、参加国は40カ国、参加者は1,200名に達するなど今後も成長を続けることが期待されています。

この様な事を背景とし、機構由来の特許に基づく植物成長促進剤（オリゴキトサン、低分子化したアルギン酸など）を用いたコケ育成について（有）ビックアロー様、（有）双葉鉄工様（共に福井県敦賀市）の実験場にて試験を行っています。ジオラマなどにも活用できるように乾燥コケとして量産、商品化を目指しています。本開発は量子科学技術研究開発機構・高崎研究所の職員からの指導も受けて進めています。



（有）双葉鉄工で商品化された「ふりこけサッサ®」

一口メモ(´ω`●)

有限会社ビックアロー様は、地産コケの収穫に係るテーマで、（公財）若狭湾エネルギー研究センターの「嶺南地域新産業創出モデル事業補助金（令和元年度）」採択され、原子力機構と技術開発に取り組んでいます。